

テーマ：貿易統計（2018年2月）
 ～実質輸出は均してみれば増加基調～

発表日：2018年3月19日（月）

第一生命経済研究所 経済調査部
 担当 エコノミスト 齋藤 麻菜
 TEL：03-5221-4573

| | | 貿易収支(億円) | | | | 輸出数量 | | | | 輸入数量 | | | | |
|-----|-----|----------|--------|--------|------|------|------|------|------|------|------|------|------|------|
| | | 原数値 | 季調値 | 輸出金額 | 輸入金額 | 前年比 | アメリカ | EU | アジア | 前年比 | アメリカ | EU | アジア | |
| | | | | 前年比 | 前年比 | | | | | | | | | |
| 17年 | 3月 | 6,035 | 1,667 | 11.9 | 16.0 | 6.6 | 4.5 | ▲0.0 | 7.6 | 4.2 | 14.5 | 4.5 | 6.0 | |
| | 4月 | 4,783 | 1,150 | 7.5 | 15.2 | 4.1 | 2.9 | 2.7 | 6.7 | 4.9 | 8.8 | 2.9 | 5.7 | |
| | 5月 | ▲2,044 | 1,726 | 14.9 | 17.8 | 7.6 | 8.1 | 16.7 | 6.7 | 5.4 | 5.5 | 3.0 | 8.6 | |
| | 6月 | 4,332 | 1,002 | 9.7 | 15.7 | 4.0 | 5.2 | 4.6 | 3.6 | 4.3 | 13.5 | 7.8 | 3.4 | |
| | 7月 | 4,066 | 2,987 | 13.4 | 16.5 | 2.6 | 3.0 | ▲1.0 | 1.9 | 3.2 | 5.7 | 4.6 | 6.6 | |
| | 8月 | 968 | 3,301 | 18.1 | 15.5 | 10.4 | 18.1 | 2.9 | 9.4 | 2.4 | 1.3 | 3.6 | 3.5 | |
| | 9月 | 6,538 | 2,365 | 14.1 | 12.3 | 4.8 | 6.2 | ▲1.8 | 8.9 | ▲0.2 | 14.4 | 4.4 | ▲1.0 | |
| | 10月 | 2,786 | 3,398 | 14.0 | 19.0 | 3.8 | 1.6 | 0.6 | 7.8 | 3.2 | 0.3 | 11.0 | 4.6 | |
| | 11月 | 1,052 | 2,843 | 16.2 | 17.3 | 5.5 | 4.8 | ▲1.8 | 9.1 | 2.6 | 14.2 | ▲1.7 | 6.6 | |
| | 12月 | 3,562 | 680 | 9.4 | 15.0 | 4.5 | 2.9 | 1.5 | 2.5 | 5.9 | 5.5 | 3.3 | 9.6 | |
| | 18年 | 1月 | ▲9,441 | 3,523 | 12.3 | 7.7 | 9.2 | 4.2 | 9.7 | 9.8 | 2.6 | 9.8 | 9.0 | 0.3 |
| | | 2月 | 34 | ▲2,015 | 1.8 | 16.5 | ▲2.1 | 5.1 | ▲0.9 | ▲8.5 | 11.7 | 5.2 | 5.9 | 25.7 |

(出所)財務省「貿易統計」

○春節の影響から貿易収支（季節調整値）は赤字に

2月の貿易統計が財務省より発表され、貿易収支は34億円の黒字（コンセンサス：+891億円、レンジ：▲6,100～+4,117億円）と、コンセンサスを小幅に下回る結果となった。

輸出金額は、前年比+1.8%（コンセンサス：+1.4%、レンジ：▲4.4%～+5.4%）と増加したものの、伸び幅は大きく縮小した。価格面での押し上げも小幅に留まる中で、数量が同▲2.1%と減少したことが、金額の伸びを抑える結果となった。一方で輸入金額は、同+16.5%（コンセンサス：+16.0%、レンジ：+8.8%～+23.9%）と高い伸びとなった。輸入金額については、数量が同+11.7%と大きく増加したことが押し上げの主因だ。

季節調整値では、輸出金額が前月比▲1.0%、輸入金額が同+7.5%となった。輸出金額がマイナスとなる一方で輸入金額が高い伸びとなり、貿易収支は▲2,015億円と28ヶ月振りの赤字となった。ただし、2月については、春節が輸出金額の押し下げに寄与する一方で、輸入金額に対しては押し上げに働いた。貿易赤字はそうした要因による一時的なものとなるだろう。

○実質輸出は前月比▲0.8%

為替などの価格変動の影響を除いた実質輸出は、前月比▲0.8%（1月：同+2.3%、実質化・季節調整は第一生命経済研究所試算）とマイナスに転じた。ただし、2月は春節の影響で実態よりも押し下げられている面が大きい。1-2月を均してみると、12月の水準を1.9%上回っており、輸出は輸送用機器の増加を主因に増加基調を辿っていると判断できる。

実質輸出を国別にみると、アジア向けが大きく減少したことが全体の押し下げに働いている。もっとも、1-2月を均してみれば、アジア向けは12月の水準から横ばいで推移している。電子機器が12月の高い水準

から一旦鈍化したことが押し下げ圧力となっているが、世界経済の好調さを背景に半導体製造装置や原動機などの一般機械や輸送用機器が増加を続けている。電気機器についても、電子部品需要が多岐にわたっていることや経済環境の良好さを受けて、今後も増加基調が続くとみている。また、米国向けについては、輸送用機器が大きく増加したことを主因に同+7.6%と大きく上昇した。米国向け輸送用機器については、日本車販売が堅調だった割に12月・1月と輸出が伸び悩んでいたが、一気にその差が解消された形だ。EU向けについても、乗用車など輸送用機器が大きく押し上げに寄与するなど全体として堅調に推移し、大幅増となった前月から横ばいで推移する結果となった。

○輸出は今後も増加基調が続く

以上のように、2月の実質輸出は、アジア向け輸出の減少を主因に前月比マイナスとなったが、春節によって振れている影響が強く、1-2月を均してみれば増加基調を維持する結果となっている。

先行きについて海外経済をみると、米国経済は雇用環境の良好さや減税政策による個人消費の増加を牽引役に好調さを維持するとみられる。欧州経済についても堅調な内需を牽引役に景気拡大が続くだろう。アジア経済についても、堅調な中国経済や世界経済の好調さを受けて、底堅い推移を辿るとみられる。輸出はそうした世界経済の好調さを受けて、今後も増加基調が続く見込みだ。

